

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R4.9/19(月)～R4.9/25(日)

令和4年第38週

<感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
陽性者数	① 合計 ^{※2}	4570人	6557人	-	-
	② 対人口10万人	296.8人	425.8人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	0.70	0.94	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		98%	98%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率 ^{※3} （%）＝陽性者数÷検査件数		51.3%	49.4%	5%以上	10%以上

※1 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

※2 市内医療機関から川崎市保健所に届出のあった人数を掲載しています。

※3 ⑤陽性率について

陽性率を算出するための検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)により報告があった検査件数(速報値)の合算を用いております。

<医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>		9/25現在	9/18現在	-	-
⑥ 入院患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	105人	131人	-	-
	確保病床数	485床	485床	-	-
	病床使用率	21.6%	27.0%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	4人	3人	-	-
	確保病床数	69床	69床	-	-
	病床使用率	5.8%	4.3%	20%以上	50%以上

<療養者数及び入院率について>

国の通知に基づき、神奈川県でも令和4年8月から、医療機関における重点観察対象者以外の届出項目が簡略化されたことに伴い、「療養者数」及び「入院率」の集計については不確実なものとなったため、令和4年8月23日公表分以降掲載しないこととします。

<変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果（川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載）

	直近1週間	前週	累計
	R4.9/19 ~ R4.9/25	R4.9/12 ~ R4.9/18	R3.3/11 ~ R4.9/25
α 株（アルファ）	0件	0件	203件
β 株（ベータ）	0件	0件	0件
γ 株（ガンマ）	0件	0件	0件
δ 株（デルタ）	0件	0件	626件
o 株（オミクロン）：BA.1系統	0件	0件	581件
o 株（オミクロン）：BA.2系統	0件	1件	470件
o 株（オミクロン）：BA.4系統	0件	0件	5件
o 株（オミクロン）：BA.5系統	15件	52件	332件

※ここで記載している変異ウイルスの検出件数は、ゲノム解析によって確定された数です。

<評価>

第 38 週（令和 4 年 9 月 19 日～9 月 25 日）

- ・本市における第 6 波の新規陽性者数は第 6 週 13,960 人をピークとして緩やかに減少し、第 23 週は 1,411 人となりました。その後第 24 週 1,413 人から増加が続き、第 30 週には 22,063 人と急速かつ大幅な増加となり第 7 波と称されるようになりました。第 7 波はこの第 30 週 22,063 人をピークとして毎週減少し、第 38 週（今週）は 4,570 人と 8 週連続して減少しています。前週比は第 28 週 2.10 から減少し始め、第 31 週は 0.83 と 4 週間連続して減少し 8 週ぶりに 1.0 を下回り、第 38 週（今週）は 0.70 と 8 週連続して 1.0 を下回っています。
- ・入院患者数は、第 6 波においては第 7 週 335 人をピークとして緩やかに減少、第 24 週は 24 人となりました。第 7 波はこの第 31 週 368 人をピークとして減少傾向となり、第 38 週（今週）は 105 人と 7 週連続して減少しています。
- ・入院病床使用率は、第 6 波においては第 7 週 70.2%をピークとして減少し、第 24 週は 4.9%となりました。第 7 波では、第 25 週 8.5%から第 31 週の 75.9%をピークとして減少傾向となり、第 38 週（今週）は 21.6%と 7 週連続して減少しています。
- ・入院中の重症患者数は、第 6 波においては第 8 週 30 人をピークに減少し、第 21 週から第 25 週まで 5 週連続して 0 人でしたが、第 26 週 2 人から毎週のように増加し、第 32 週は 14 人となりました。第 7 波においては第 32 週の 14 人をピークとしその後減少に転じ、第 37 週（前週）3 人と 5 週連続して減少していました。第 38 週（今週）は 4 人となっており 1 人の増加となっていますが、大きい変化はないと言えます。
- ・重症病床使用率は、第 6 波においては第 8 週の 43.5%をピークに次第に減少し、第 21 週から第 25 週まで 5 週連続して 0.0%となりました。その後第 26 週 2.9%から毎週のように増加し第 7 波となり、第 32 週の 20.3%をピークとして減少し、第 37 週（先週）は 4.3%と 5 週連続して減少しました。第 38 週（今週）は重症入院患者が 1 名増えたため 5.8%と増加していますが、大きい変化はないと言えます。

<感染の状況：直近 1 週間>

- ① 新規陽性者数は、昨年末の微増傾向に続いて令和 4 年第 1 週 522 人から、毎週 2,569 人→6,882 人→12,534 人→13,617 人と急増し、第 6 波と称されるようになりました。第 6 週 13,960 人をピークとして、第 7 週 12,983 人から第 12 週 6,282 人と 6 週連続して減少し、その後若干の増減を繰り返しながら第 23 週 1,411 人まで減少が続きました。第 24 週に入ると 1,413 人となり、その後は毎週 1,677 人→2,744 人→6,124 人→12,840 人と急増し第 7 波と称されるようになり、第 29 週は 18,754 人とこれまでのピークの第 6 週 13,960 人を越え、第 30 週は 22,063 人と大幅に増加しました。しかし、この第 30 週をピークに第 31 週 18,396 人から、その後毎週 14,126 人→13,041 人→10,490 人→7,881 人→7,007 人→6,557 人、そして第 38（今週）は 4,570 人と 8 週連続して減少しています。

なお、本市では、第 38 週はこれまで通りの全数報告数となっていますが、全数報告に変更が行われると、その数値の読み方にも変化が出てくることになります。

- ② 対人口 10 万人あたりの新規陽性者数も令和 4 年第 1 週 33.9 人から、第 2 週 166.8 人→446.9 人→813.9 人→884.2 人と急増し、第 6 週 906.5 人をピークとして、第 23 週 91.6 人まで減少が続きました。第 24 週に入ると 91.8 人となり、その後毎週 108.9 人→178.2 人→397.7 人→833.8 人→1,217.8 人、そして第 30 週 1432.7 人と大幅に増加しました。しかし、この第 30 週をピークとして第 31 週 1,194.5 人から、その後毎週 917.3 人→846.8 人→681.2 人→511.8 人→455.0 人 425.8 人、そして第 38 週（今週）は 296.8 人と 7 週連続して減少しています。

ステージ分類は、第 1 週から第 48 週（今週）まで 38 週連続してステージⅣとなっています。

- ③ 前週との増加比は、昨年末には微増しながらも 1.0 以下でしたが、令和 4 年第 1 週 18.00、第 2 週 4.92 と急増しました。第 3 週 2.68 から第 6 週 1.03 と減少が続き、第 7 週に 0.93 と 1.0 を下回り、

その後第12週まで6週連続して1.0を下回っていましたが、第13週1.06、第14週1.05と2週連続して1.0を上回りました。その後第15週0.86から、第18週0.78まで4週連続して1.0を下回り、第19週は1.24と増加したものの第20週0.86から第23週0.78まで4週連続して1.0を下回っていました。しかし、第24週1.00からその後毎週1.19→1.64→2.23と増加した後、第28週2.10から、第29週1.46、第30週1.18と減少し、第31週は0.83とさらに減少し8週ぶりに1.0を下回り、第32週は0.77と5週連続して減少しました。第33週は0.92と若干増加がみられましたが、第34週は0.80、第35週0.75と再び減少し、第36週0.89、第37週（前週）0.94と若干増加がみられていますが第38週（今週）は0.70と減少し、8週連続して1.0を下回っています。

- ④ 感染経路不明者の割合は、昨年第52週の72%から、令和4年第1週68%→79%→85%→88%と上昇し、第5週から第38週（今週）まで90%以上の高値が33週連続しています。第38週（今週）は98%でした。ステージ分類では、38週連続してステージⅣのままとなっています。
- ⑤ 検査陽性率は、令和4年第1週9.4%から、第5週51.1%まで5週連続して増加し、その後約45～55%を上下し、第15週40.9%から第18週40.4%と、4週連続しておおむね40%前後となっていました。第19週31.5%から第23週21.2%まで若干の上下をしながら減少しましたが、第24週21.5%からその後毎週22.3%→30.7%→42.4%→50.8%→60.6%と増加し、第30週からおおむね60%前後で推移していました。第35週は52.9%となり、その後第38週（今週）まではおおむね50%前後となっています。第38週（今週）は、51.3%でした。ステージ分類では、37週連続してステージⅣのままとなっています。

<医療提供体制等の負荷：報告日9月25日現在>

- ⑥ 入院中の患者数は、昨年第49週は2人と少数になりましたが、令和4年第1週23人、第2週75人からその後毎週増加、第7週335人をピークとして、第8週322人から8週連続して減少し、第15週は76人と2桁台となりました。その後若干の上下はあるものの、第24週24人まで減少した後、第25週41人からその後毎週48人→103人→160人→249人→302人、そして第31週は368人とさらに増加しました。第7波としては第31週368人をピークとし、第32週353人からその後毎週335人→330人→232人→179人、131人、そして第38週（今週）は105人と、7週連続して減少しています。

確保病床数は現在合計485床となっています。入院病床使用率は、令和4年第1週4.8%から急増し、第6波では第7週70.2%をピークとして第15週15.8%まで8週連続して減少。その後若干の上下がありますが、第24週4.9%まで減少しました。しかし第25週8.5%からその後毎週増加し、第7波として第31週75.9%がピークとなりました。その後第32週72.8%→69.1%→68.0%→47.8%→36.9%→27.0%、そして第38週（今週）は21.6%と7週連続して減少しています。

確保病床使用率のステージ分類は、第5週～第9週と5週連続してステージⅣ、第10週～第14週がステージⅢ、第15週からステージⅢ解消となり、第26週まで12週連続してステージⅢ解消となっていました。第27週・第28週はステージⅢ（20%以上）、第29週より第34週までは6週連続してステージⅣ（50%以上）となっていました。第35週から第38週（今週）は4週連続してステージⅢに戻っています。

- ⑦ 重症入院患者数は、昨年第47週～第52週は0～1人を前後し、令和4年に入った第1週も0人でしたが、第2週1人から第8週30人まで増加し、第6波のピークとなりました。第9週25人から第14週2人と6週連続して減少し、若干の増減はありましたが第20週2人と8週連続して一桁台となった後に、第21週から第25週、重症入院患者0人が5週連続しました。しかし、第26週2人からその後毎週3人→4人→6人→5人→11人、そして第32週14人と増加が続き、第32週の14人を第7波のピークとして、第33週12人からその後毎週、9人→7人→5人、そして第37週（前週）3人と5週連続して減少し、第38週（今週）は4人と若干の増加がみられていますが、大きい変化はないと言えます。

重症者の確保病床は現在 69 床となっています。重症病床使用率は、昨年第 47 週から本年第 2 週の間は 0%~1.4%を繰り返していました。第 3 週 4.3%から増加が続き、第 8 週の 43.5%が第 6 波のピークとなり第 9 週 2.9%まで減少が続き、その後若干の上下がありますが、第 20 週 2.9%、そして第 21 週から第 25 週は重症入院患者数 0 人のため重症病床使用率も 5 週連続して 0.0% となっていました。しかし第 26 週 2.9%からその後毎週 4.3%→5.8%→8.7%と増加し、第 30 週は 7.2%と一時減少しましたが、第 31 週は 15.9%、第 32 週 20.3%とほぼ 7 週連続して増加し、第 32 週の 20.3%を第 7 波のピークとして第 33 週 17.4%からその後毎週 13.0%→10.1%→7.2%、そして第 37 週（前週）は 4.3%と 5 週連続して減少していました。第 38 週（今週）は重症入院患者が 1 名増えたため 5.8%と増加していますが、大きい変化はないと言えます。

重症者の確保病床使用率のステージ分類は、第 6 週~第 11 週は 6 週連続してステージⅢとなっていました。第 12 週にステージⅢが解消となり第 31 週まで 20 週連続してステージⅢ解消が続いていました。第 32 週はステージⅢとなりましたが、第 33 週から第 38 週（今週）は 6 週連続してステージⅢ解消となっています。

<変異ウイルス検出状況>

ウイルス株については、現在本市においてはオミクロン株のみの検出となっています。第 38（今週）は、オミクロン株 15 件中 BA.5 が 15 件となっています。

本市における新規陽性者数は第 6 週、入院患者数としては第 7 週、重症患者数は第 8 週をいわゆる第 6 波のピークとして、多少の増減を繰り返しながら全体として減少傾向が続いた後、新規陽性者数は第 24 週あたりから増加に転じ、第 30 週 22,063 人と大幅に増加しました。それに伴って入院患者数も第 26 週 48 人から第 31 週 368 人と増加、第 25 週まで 5 週連続して 0 人であった重症入院患者数も第 26 週 2 人から第 32 週 14 人と増加していました。しかし、新規陽性者数は第 30 週 22,063 人を第 7 波のピークとして減少に転じ、第 38 週（今週）4,570 人と 8 週連続して減少しています。なお本市では、第 38 週はこれまで通りの全数報告数となっていますが、全数報告に変更が行われると、その数値の読み方にも変化が出てくることになります。

入院患者数については、第 31 週 368 人を第 7 波のピークとして減少に転じ、第 38 週（今週）105 人と減少が 7 週連続しています。重症患者数も第 32 週 14 人を第 7 波のピークとして減少に転じ、第 37 週（前週）は 3 人と 5 週連続して減少し、第 38 週（今週）は 4 人と停滞していますが、大きい変化はないと言えます。

前週との増加比は、第 24 週 1.00 からその後毎週 1.19→1.64→2.23 と 1.0 を上回った後、第 28 週 2.10、第 29 週 1.46、第 30 週 1.18、第 31 週 0.83 と 4 週間連続して減少し 8 週ぶりに 1.0 を下回り、その後毎週 0.77→0.92→0.80→0.75 と推移し、第 36 週 0.89、第 37 週（前週）0.94 と若干増加がみられましたが、第 38 週（今週）は 0.70 であり、8 週連続して 1.0 を下回っています。

新規陽性者数の減少に伴って入院患者数、重症患者数も減少が続いています。それに伴って通常の生活が戻りつつあることはとても良いことですが、今の生活の状況を維持し、さらに良い方向に向けていくためには、お一人お一人が感染予防におも気を付けていただくことは大変重要です。感染予防に関する基本的な注意はぜひ続けながら、心地よい秋をお送りください。

基本的な注意点というのは、繰り返しになりますが、三密を避ける、適切な距離が保てないなどの時は不織布マスクを正しくつける、閉鎖空間では換気に気をつける、手洗い・手指の消毒をこまめにするなどで、新型コロナウイルスに限らず感染症にならない、感染症を広げないための大切な注意点です。一方、もし発熱等の症状がみられた場合には無理せず体を休め、受診あるいは自宅での抗原検査利用などしていただければと思います。高熱が続く、息苦しさを感ずる、もともとの持病が悪化傾向にある場合などは、早めの受診が必要ですので、かかりつけの先生あるいは保健所などへご相談ください。検査、

受診などに関しては、川崎市ホームページ <https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000116178.html> などにも案内が掲載されています。

ワクチンについて、本市においては今週よりオミクロンワクチンの接種が始まりました。まだ一気にすべての方に行きわたるわけではありませんが、接種会場・医療機関などに順次配布が続けられています。接種対象となっている方におかれましては早めに受けていただき、免疫を強固なものにしておくことを強くお勧めします。様々な事情でワクチン接種ができない方におかれましては、感染予防に関する注意は強めにして下さいますよう、よろしく願いいたします。